

# 来週の「売り物記事」はこれ



2017年12月1日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 立憲民主党、躍進の舞台裏

3日(日)



10月の衆院選で55議席を獲得し、野党第1党に躍進した立憲民主党。枝野幸男代表(53)による結党記者会見=写真=からわずか20日間の出来事でした。結党に至るまでの枝野氏や周囲の動き、党名に込められた思い、街頭演説で聴衆の反応を見た枝野氏の胸中…



…。短期間で大きな求心力を得た舞台裏、今後の立ち位置を模索する姿に迫ります。

筆者は政治部の影山哲也記者、東京社会部の尾中香尚里編集委員です。

## 「クラッシャー」「修造部長」あの人はどっち?

### 「理想の上司」を考える

夕刊特集ワイド 5日(火)



パワハラ、長時間残業などの酷使、働く女性への無理解——。そうやって部下をつぶしてしまう「クラッシャー上司」が問題になっています。理想の上司とは、どうあるべきなのでしょう。今、「求められる上司像」といえば、あの「熱過ぎる男」を思い浮かべる人も多いのでは? そう。プロテニスプレーヤーにして人気キャスターの松岡修造さん。その人へのインタビューもまじえて、「上司と部下」の望ましい関係について考えます。

## 親ありて 大谷翔平選手の父

くらしナビA面6日(水)

著名人の親に子育ての逸話を聞く「親ありて」。今回はプロ野球・日本ハムの選手で、米大リーグ挑戦を表明した大谷翔平選手(23)の父、徹さん(55)。投打の二刀流で日本中を沸かせ、米国でも高評価の大谷選手。社会人野球の選手経験がある徹さんから、基礎を教わりました。しかし、徹さんは「厳しく育てたわけではない。ごくごく普通です」と語ります。



## プラスα 暴力にNO

くらしナビA面 8日(金)



大相撲の元横綱・日馬富士の暴行問題は、目上のもものがしつけと称して暴力を振るうという考えが、まだ日本社会に残っていることを示しています。角界のみならず、学校や家庭でも親、教師、先輩などによる暴力は根絶されていません。しかし、体罰を受ける側は心身に悪影響を受ける危険があり、許されることではありません。どうすればよいか取材しました。

## それホント? 女性猟師じわじわ増加



### サラダぼうる

4日(月)

野生動物の管理捕獲をする猟師が高齢化するなか、女性猟師がじわじわと増えていきます。狩猟免許を持つ女性は10年前と比べて約3倍に増えました。長野県の山村・泰阜村で暮らして、わな猟や鉄砲猟をしている32歳の女性に記者が同行。猟の魅力を尋ねました。女性は「野生動物を放置したら森が荒れる。人間が壊した自然は人間が守らなければ」と語ります。



## グランプリの栄冠は誰に

毎日スポーツ人賞発表 1面、スポーツ面 5日(火)



すぐれた成績をあげた、あるいはスポーツ文化の向上に貢献した個人、団体を表彰する「毎日スポーツ人賞」の受賞者が4日に発表されます。最高賞「グランプリ」の候補には、陸上男子100mで日本選手として初めて10秒の壁を破った桐生祥秀選手、男子ゴルフのメジャー大会・全米オープンで2位に入った松山英樹選手、自動車の世界3大レースの一つ「インディ500」を日本人として初制覇した佐藤琢磨選手らが挙がっています。スポーツ界で多くの快挙が成し遂げられた2017年、栄冠は誰に輝くでしょうか

カズオ・イシグロさん ノーベル文学賞授賞式 10日(日)

ノーベル文学賞に決まった英国人作家、カズオ・イシグロさんへの授賞式が10日(日本時間11日)、スウェーデン・ストックホルムで行われます。授賞式に先立ってイシグロさんは、6日に記者会見、7日(同8日)には記念講演に臨みます。5歳までを長崎で過ごし、日本を「もう一つのふるさと」と言うイシグロさんの言動を、現地からお伝えします。



がんにも負けるな 企業の取り組み 医療・福祉面 6日(水)



昨年12月のがん対策基本法改正により、がんになった従業員の雇用継続に配慮する努力義務が定められた。がん患者の3人に1人は働く世代で仕事と治療の両立支援は企業の課題だ。

早期発見できるように国立がん研究センターと提携した伊藤忠商事のほか、外部企業と連携し、がんになっても働きやすい職場について、学び情報交換する取り組みを始めたライフネット生命などを紹介する。